

文部省大学学術局長 宮 地 茂 殿

日本学術会議事務局長 鶴 飼 肥佐男

昭和44年度特定研究について(申入れ)

さきに昭和48年7月13日付庶発第792号をもつて、「昭和44年度科学研究振興に必要な予算について」申し入れた際、44年度においてとりあげるべき特定研究課題については、後日申し述べることを申しそえておきましたが、その後日本学術会議としては、関係者の説明を受け別記の基準に照らして慎重に検討した結果、下記の各課題を選定しましたので、この点申し入れます。

なお、貴省において決定されるに当つては、あらかじめ本会議と十分に打合せを行なわれるよう、あわせて申し添えます。

記

水文学、脳障害、生物物理、生物圏の動態、明治・大正・昭和における日本近代化の研究、科学教育、量子エレクトロニクス、以上継続

極低温における物性の研究、実験動物—開発・改良に関する基礎的研究—、Radio-ecology
農業の危害、情報処理に関する研究、分子科学、生物環境制御、以上新規

別 記

選 定 の 基 準

1. 研究の成果が多くの分野に影響を与え、他の分野からもその急速な発展を望まれるもの。
2. 境界領域の研究であつて、特に重要なもの。
3. 国際的に常時研究調査観測し、その成果を国際的に連絡することを要するもので、わが国が参加すべきもの。
4. いくつかの研究機関にまたがる研究であつて、総合的に、その飛躍的發展を図るべきもの。
5. わが国の経済の発展、国民生活の安定向上のため、特にその研究の促進を図るべきもの。

内閣総理大臣 佐 藤 栄 作 殿

日本学術会議会長 朝 永 振一郎

(写送付先：総理府総務長官、大蔵、文部、
厚生、建設、および自治各大臣)

民家の緊急調査と重要遺構の保存について(勧告)

標記のことについて、本会議第51回総会の議に基づき、下記のとおり勧告します。

記

わが国の民家は木造を主体とする独特の様式をもち、庶民生活の発展とともに歴史的に形成されてきた日本民族の貴重な文化遺産である。しかるに、最近の国民生活様式の急激な変化、全国的な地域開発の進行、僻地の荒廃化現象などによつて、多年にわたつて蓄積されてきた学術上重要な価値あるこれらの文化財が急速に改ざん、破壊され、消滅しつつある。これらの文化財がいつたん破壊される